

ポスターB-3**ポスター発表(実践)****神戸市立小学校 JSL 教室における学習発表会の実践報告**
—作り出し、伝える喜びを体感し、自己肯定感と学習意欲を高める—

辻村文子・野村春美・石井真未枝・三木知津子・川越真理・森下実磯代
(こうべ子どもにこここ会 こうべ校内 JSL 研究会)

1. 小学校JSL教室の活動紹介

こうべ子どもにこここ会の日本語教師が、神戸市教育委員会学校教育課の外国人児童生徒支援ボランティアとして、外国につながる子ども(現在2校で24名)の学習支援を行っている。支援形態は原則マンツーマン指導、週1回1コマ45分、年間30回の取り出し授業である。本発表のテーマである学習発表会を1年間の学習の総括と位置付け、2014年度より年度末に実施している。

2. 学習発表会の目標

発表に向けた学習活動を各児童が主体的、能動的に行い、児童の個性や現在持っている力を生かした発表を行う。発表の達成感を得ることで学習への意欲や自己肯定感を高める。他の児童の発表参観、参観者のコメントを通して自身の発表内容、表現を客観的に省みる。

3. 学習発表会実施までの過程と実施内容

3学期より準備開始。児童と支援者で相談し、テーマや内容、発表方法を決定する。発表内容は朗読、クイズ、作文発表、本の紹介、俳句、劇、母国の紹介など。発表方法は聞き手に配慮し、フリップ等の視覚材料を取り入れるなどの工夫をする。参観者には児童が招待状を作成する。発表会は児童の司会進行で進め、1人5分程度の発表を行う。発表後に参観者(校長、教頭、担任、市教委指導主事、保護者、こうべ子どもにこここ会放課後教室支援者など)から感想を聞く。翌週には発表の録画を見て、フィードバックを行う。

4. 学習発表会の効果と課題

自ら考え、準備したことを発表し、先生や保護者の賞賛を受けた児童は、達成感、自信を得て、翌年の発表会への抱負、反省を自ら口にするなど、日々の学習活動への積極性の高まりが見られる。また、発表会後に学級で再発表するケースもあり、担任や級友に認められ、さらに自尊感情を高め、母国に対する誇りを持つきっかけともなる。同時に、学級の児童にとっては異文化を知り、国際理解を深める機会となる。一方、支援者は短い準備期間で、いかに児童の主体性を引き出し、個性や能力を生かした発表につなげるかが課題であり、自己研鑽を図ることが重要と感じている。

【引用文献】

なし